



第1回

学習企画

「軍事国家への道を許さない」

はじめに

岸田政権が閣議で安保3文書を昨年12月16日に決定しました。これは、これまで自民政権が曲がりなりにも掲げていた「専守防衛」「防衛費はGDP1%」という枠組みを一気に変える大転換となっています。これは、どういうものを一緒に考えるために学習企画をいたします。また、国民が大いに関心があると思われる「日本国民を守るために」「日本を守るために」何が必要なのかという問題提起もしたいという思いで連載をいたします。

元寇による日本侵略

ウクライナの情勢をニュースなどで見て「他国が軍事行動を突然起こすことがあるので、軍事力は強化しておかないと。」という雰囲気を作られているのではないのでしょうか？

そこで、日本国民・日本を守るという点でまず日本の歴史を振り返ってみたいと思います。

日本が他国から侵略されたものは限定的なものをのぞけば、これまでに3回ほどありました。1回目は元寇。2回目は幕末期の薩摩藩・長州藩が起こした戦争です。3回目は第二次世界大戦末期の日本全土と

沖縄および千島列島です。

最初の侵略戦争である元寇は、鎌倉時代（第8代執権の北条時宗の時代）の1274年の文永の役と7年後の1281年にあった弘安の役です。「元」は、現在のモンゴルを発祥としたチンギス・ハンが作り上げた一大帝国です。この元寇の当時はフビライ・ハンが皇帝でした。当時の「元」は、世界の1/4を占める大帝国でした。日本とは比較にならない巨大な戦力がありました。その「元」が日本に対して侵略戦争を仕掛けてきたのです。



▲「蒙古来襲絵詩（出典：Wikipedia）」

1274年の文永の役では、4万人の兵員と900艘の船で押し寄せ、対馬・隠岐の島・博多で戦争となりました。対馬では多くの日本人が虐殺されることもありました。しかし、「元」も1万人を超える被害を出し、撤退を

しました。

1281年にあった弘安の役では14万人の兵員を動員した戦争を対馬・隠岐の島・博多にしかけて来ましたが、台風等により「元」は約10万人の戦死者を出

裏面へ続く→

し、撤退をしました。

この元寇で明らかになったのは、偶然に台風が発生して日本が勝利したということではなく、大陸で大きな軍事力（主に陸上の兵員）を持っていた「元」は海

軍力が弱く、海上戦の経験も非常に乏しいという欠点があったことが言われています。ちなみにその伝統は現在の中国も受け継いでいます。

幕末における藩と外国との戦争経験

その後豊臣秀吉による朝鮮出兵など日本からの侵略戦争行為はありましたが、日本への侵略戦争は行われませんでした。しかし幕末の1863年・1864年と藩による戦争が行われ、他国による日本への砲撃などがありました。

1863年5月10日下関戦争と1864年8月馬関戦争では長州藩（現在の山口県）がイギリス・フラン

ス・オランダ・アメリカと戦争をしています。また、1863年8月15日には薩摩藩（現在の鹿児島県）がイギリスと戦争を行い、この時は、鹿児島市の城下の1割が焼けるほどの被害がでています。しかし、いずれも「賠償」や「不平等な待遇」などで日本への直接的な侵略とはなりません。



▲イギリス公使代理ジョン・ニール



▲薩摩側の交渉団 (出典: Wikipedia)

第二次世界大戦時の日本国土への攻撃と上陸、そして占領

日本は、明治維新後中国への侵略戦争を開始しました。

その後15年戦争となり、ついに連合国との全面戦争に発展しました。そして連合国による反撃にあい日本全土が空襲に見舞われました。1945年3月26日から沖縄へのアメリカ軍の攻撃が始まり、最終的には沖縄本島が占領されるということになりました。また、8月9日にはソビエト連邦（現ロシア）が千島列島への攻撃をし、千島列島と北海道の一部の島の占領という事態となりました。これが他国から日本への侵略の3回目の出来事です。（国吉）



▲避難民のこども（沖縄戦）
(出典: Wikipedia)